厚生労働科学研究費補助金（統計総合研究事業）
「地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類（ICF）による
多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究」
令和２年度　分担研究報告書

子どもの育ちを切れ目なく支えるICFを活用した共通情報シート開発に向けた基礎的研究

研究分担者：徳永亜希雄　（横浜国立大学教育学部）
研究協力者：田中浩二　　（東京成徳短期大学）

研究要旨
研究目的：就学前から就学後では，それぞれを所掌する行政区分が異なることから，子どもへの支援に必要な情報が円滑に引き継がれていないことが課題とされ，厚生労働省と文部科学省の共同事業「トライアングルプロジェクト」等の取組が進められてきた（家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクトチーム，2018）．そのことを踏まえ，申請者は，WHO において共通言語として開発された ICF の活用を手がかりとする研究に取り組み，その可能性について報告してきた（徳永・田中他，2020）．そこで，本研究においては，子どもの育ちを切れ目なく支える ICF を活用した共通情報シート開発に向けた基礎的な知見を得ることを目的とした．
研究方法：子どもの育ちを切れ目なく支える ICF を活用した共通情報シート開発に向けた基礎的研究として、現行の保育所の「健康」及び知的障害特別支援学校の「生活科」の内容に着目し、それらと ICF の項目のマッピング作業を行った。
結果及び考察：今回，子どもの育ちを切れ目なく支える ICF を活用した共通情報シート開発に向けた基礎的研究として、「健康」と「生活科」の内容と ICF の項目のマッピング作業を行ったところ、「活動と参加」の「学習と知識の応用」や「セルフケア」を中心に分類項目が抽出された。今後、これらを踏まえて共通情報シート開発に向けた調査票を作成し、保育士や特別支援学校教員の協力を得て、実証を行う予定である。
結論：今年度開発したツールを活用して、ある程度の規模のフィールドトライアルの実施を予定している。

A. 研究目的

・就学前から就学後では，それぞれを所掌する行政区分が異なることから，子どもへの支援に必要な情報が円滑に引き継がれていないことが課題とされ，厚生労働省と文部科学省の共同事業「トライアングルプロジェクト」等の取組が進められてきた（家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクトチーム，2018）．そのことを踏まえ，申請者は，WHO において共通言語として開発されたICFの活用を手がかりとする研究に取り組み，その可能性について報告してきた（徳永・田中他，2020）．そこで，本研究においては，子どもの育ちを切れ目なく支えるICFを活用した共通情報シート開発に向けた基礎的な知見を得ることを目的とした．

B. 研究方法

子どもの育ちを切れ目なく支えるICFを活用した共通情報シート開発に向けた基礎的研究として、保育所の「健康」の内容「保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する」他の全 10 項目、及び「生活科」の内容「基本的生活習慣」他全 12 項目の第 1～3 段階中の第 1 段階の記述内容と ICF-CY の項目について、マッピング作業を行った．

マッピング後、①記述内容に直接関わると判断された「活動と参加」第2レベル項目（中心項目）、②記述内容の背景にある基礎的な内容と判断された「活動と参加」第2レベル項目」（基礎項目）、③関連する「活動と参加」詳細項目（詳細項目）、④「活動と参加」以外の項目（関連項目）の 4 つに分類し、主に①と②の項目を一覧として抽出した。なお、一連の作業は研究者 3 名による合議のもとで行った。

C. 研究結果

ICF 項目へのマッピングの作業の結果、「健康」では、「d133 言語の習得」他，計 57 項目が抽出された。

表１　保育指針と領域１の ICF コード

保育指針	コード例 (1) の領域
1 保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。	d133言語の習得
2 いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。	d310話し言葉の理解
3 進んで戸外で遊ぶ。	d325書き言葉によるメッセージの理解
4 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	d330話すこと
5 保育士等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。	d331言語以前の発語
6 健康な生活のリズムを身に付ける。	d332歌うこと
7 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。	d335非言語的メッセージの表出
8 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。	d350会話
9 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。	d710基本的な対人関係
10 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。	d750非公式な社会関係
	d760家族関係
	d815就学前教育
	d816就学前教育時の生活や課外活動

「生活科」では、「d550 食べること」他，中心項目では計 14 項目、基礎項目では 11 項目、関連項目 7 項目、計 32 項目が抽出された。

表 2 「生活科」の基本的生活習慣の記述とコード化の内容

知的障害の「生活科」 基本的生活習慣	中心項目
食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ｱ) 簡単な身辺処理に気付き，教師と一緒に行おうとすること。 (ｲ) 簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。	d550 食べること
	d560 飲むこと
	d530 排泄
	d540 更衣
	基礎項目
	d130 模倣
	d133 言語の習得ｃｙ
	d134 付加的言語の習得ｃｙ
	d135 反復
	d137 概念の習得cy
	d140 読むことの学習
	d145 書くことの学習
	d150 計算の学習

また、それぞれに共通した中心項目は、「学習と知識の応用」や「セルフケア」等に関する 8 項目が抽出された。

表 3　共通した 8 項目の内容

共通項目	
d230	日課の遂行
d530	排泄
d540	更衣
d550	食べること
d560	飲むこと
d571	安全に注意すること
d710	基本的な対人関係
d880	遊びにたずさわること

D. 考察

今回、子どもの育ちを切れ目なく支える ICF を活用した共通情報シート開発に向けた基礎的研究として、「健康」と「生活科」の内容と ICF の項目のマッピング作業を行ったところ、「活動と参加」の「学習と知識の応用」「セルフケア」を中心に、分類項目が抽出された。

抽出された項目のうち、それぞれに共通した「d550　食べること」、「d560　飲むこと」、「d530　排泄」、「d540　更衣」等については、子どもの育ちを支える上で生活年齢にかかわらず、重要な要素と考えられた。

他方、そうでないものについては、生活年齢や「健康」及び「生活科」の趣旨に由来するものと考えられた。

E. 結論

今回、子どもの育ちを切れ目なく支える ICF を活用した共通情報シート開発に向けた基礎的研究として、「健康」と「生活科」の内容と ICF の項目のマッピング作業を行った。

今後、これらを踏まえて共通情報シート開発に向けた調査票を作成し、保育士や特別支援学校教員の協力を得て、実証を行う予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

徳永亜希雄、田中浩二、大夛賀政昭. 子どもの育ちを切れ目なく支える ICF を活用した共通情報シート開発に向けた基礎的研究―保育所及び知的障害特別支援学校の内容と ICF のマッピング作業を通して―. 第 9 回 ICF シンポジウム. 2021.2.20

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし